

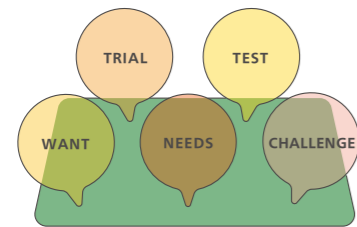
5章

今後の進め方

5-1 利活用、維持管理・運営の考え方

5-1-I. 基本的な考え方

1 様々なニーズに対応し新たなチャレンジを可能とする場づくり

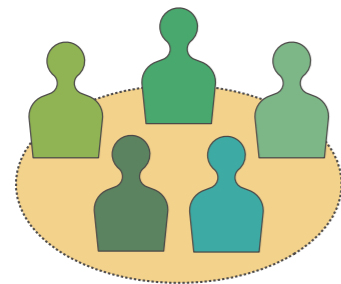


整備後も様々なニーズに応じて必要な更新を繰り返しつつ、常に誰かが新たなチャレンジを行っている空間となる



賑わい創出社会実験でのチャレンジショップの様子

2 多様な関係者が関わる管理運営の仕組みづくり

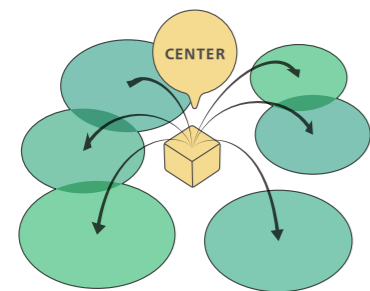


行政、市民、企業など、この空間に価値を見出す大勢の人々が協働して維持管理や運営に携わる仕組みをつくる



社会実験準備会の様子

3 まちづくりの波及と連携づくり



沿道の再開発や商店街やみなとまちづくりなどと連携した取り組みを進め、相互に波及効果を高めるとともに、市内をはじめ広域に展開される様々なまちづくり活動をつなぐ拠点としての役割を果たす

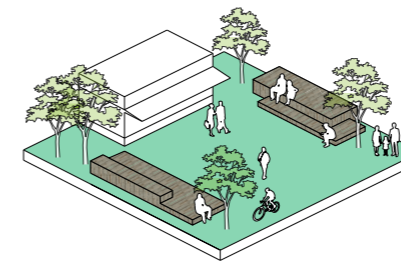


賑わい創出社会実験でのインフォメーションブースの様子

5-1-II. 管理運営のイメージ

1 公共空間の管理運営への民間活力の導入

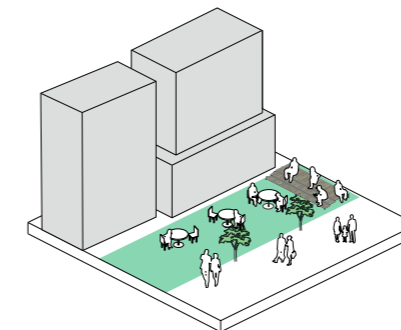
- コンセッション制度（バスタエリア）
- Park-PFI（国道1号～JR四日市駅）
- 指定管理者制度



Park-PFIの事例 久屋大通公園（名古屋市）

2 沿道施設と一体となった公共空間活用

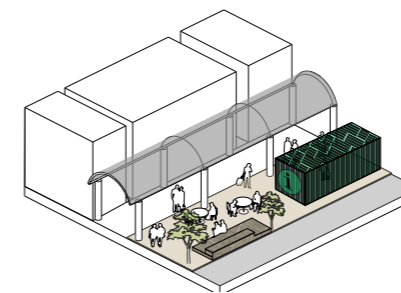
- 歩行者利便増進道路（ほこみち）
- 公開空地活用



ほこみち指定道路の事例 三宮中央通り（神戸市）

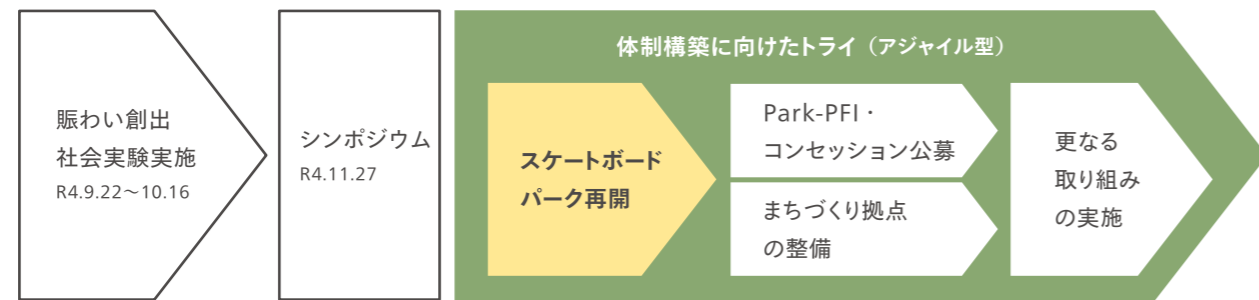
3 まちづくり拠点

- まちなか空間の利用調整の場
- まちづくり情報のインフォメーション

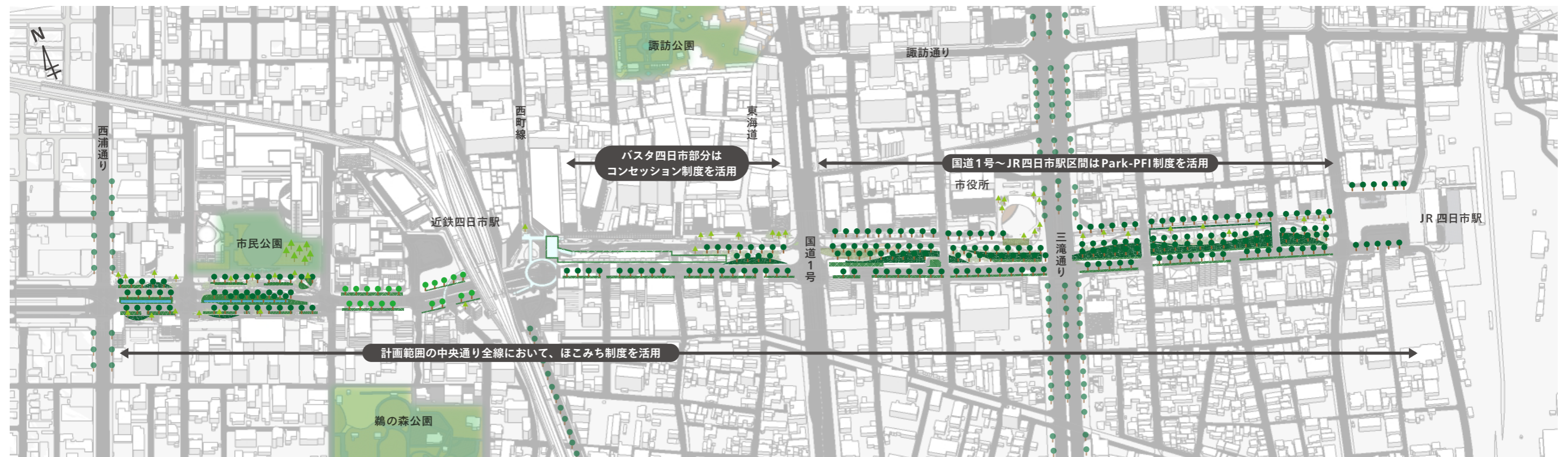


まちづくり拠点の事例
アーバンデザインセンター
松山（松山市）

5-1-III. 進め方について



- 歩道にオープンカフェ等の設置が可能な「歩行者利便増進道路制度 (ほこみち)」を中央通り全線で活用する
- 道路を公園的に使うことができるようにした上で、飲食店や売店等の設置が可能な「Park-PFI」を活用する



※樹木の本数は正確ではなく、配置イメージを模式的に表現している
 ※緑地の形状は、今後ランドスケープの検討により変更の可能性あり

5-2 事業スケジュール

事業スケジュールについては、
今後の調整により変更の可能性がある

---▶ 基本計画策定以降、本計画と連携しつつ、
別途の関連事業等として検討・調整を行っていく事項

